

三・一一からの問い

「開発途上国のエネルギー問題」資料展の報告

小林磨理恵

東日本大震災に連なる福島第一原子力発電所事故による放射能汚染は、将来にわたる生活の安全を脅かしている。日本のエネルギー政策が分岐点に立たされたことは言うまでもないが、他国においても原子力の「平和利用」の是非が問いただされている。

アジア図書館では、日本の

原発事故に対する開発途上地域の反応や、諸地域のエネルギー事情に対する理解を深める趣旨のもとに、本年九月、「開発途上国エネルギー問題」資料展を開催した。

展示の内容は、①当館が所蔵するエネルギー関連の図書、②原発事故やエネルギー政策に関わる新聞記事と見出しのリスト、③雑誌に掲載されたエネルギー関連の論文や記事の情報リストの三点に大別される。本稿では、新聞記事の展示を中心にその内容を紹介したい。

資料展に先立ち、ライブリアンは自身の担当する国・地域で発行された三月二二日

以降の新聞（計二十七カ国／三一紙）を読み、原発事故をめぐる一連の報道を抽出した。その中で、特に原発事故とエネルギー政策との関連について書かれた記事を選定して各々の見出しに日本語訳を付与し、一覧化した。資料展では、その一覧表と共に、一部の新聞を閲覧に供した。

各国の新聞は、原発事故の動向を連日詳細に知らせた。マレーシアの『*Utusan Malaysia*』が「放射能漏れを制御できず、原子炉建屋の破壊が発端。マレーシア政府、在日マレーシア人引き揚げを準備」（三月一七日）、また、ペルーの『*El Comercio*』が「放射能の雲でパニックに―約六〇〇人のペルー人がリマ行き航空券を購入」（三月一七日）との見出しで報じたように、事故の深刻な状況とともに日本在住の自国民を案じる記事も多くみられた。

また、各新聞は、日本での惨事を「他人事」としてではなく、自国、あるいは近隣諸

地域の原子力政策と結びつけて報じた。トルコの『*Cumhuriyet*』は「日本において放射線拡散はチエルノブイリの水準に達した。エルドアン首相は、核を擁護」（三月一六日）／「トルコでは、核を主張し続ける。」（三月一七日）、また、中国の『*人民日報*』は「原発の建設をやめるわけにはいかない。安全と場所の選定をさらに重視」（三月二二日）との見出しで自国の原子力政策の立場を明らかにした。また、メキシコの『*El Jornada*』は「メキシコでは二〇二八年までにさらに一〇カ所の原発を建設予定。エネルギー省は原発を今後のエネルギー供給の重要な切り札と位置づけている」（三月一六日）として、原発建設計画が進行中であることを伝えた。

一方で、セネガルの『*Soleil*』は、「ワッド大統領、再生可能エネルギー会議に出席―『アフリカを非原発地帯に』（四月二九日）との見出しで、セネガルが原子力エネ

ルギーの利用を断念し、再生可能エネルギー利用の道を選択したと報じた。

日本の原発事故は、世界各地の原発反対論者の主張を強化し、抗議デモ勃発の引き金を引いた。タイの『*Bangkok Post*』は、「原発事故を受けて、南タイの住民はタイにおける最初の原発建設に反対する姿勢をとっている」（四月四日）

／「ベトナムの八つの原発建設計画に抗議する意見書が在タイベトナム大使館に提出された」（四月二七日）と報じ、最初の原発建設構想が暗礁に乗り上げた様相を知らせた。

インドでは、稼動すれば世界最大規模となるジャイタプル原発の建設計画に反対するデモが、日本の原発事故以降激化したと報じられている（三月一八日付『*Times of India*』など）。他方で、アルゼンチンの『*La Nacion*』が「アルゼンチンで原発の是非が論争に―専門家はアトウーチャ原発とエンバルセ原発の安全性を強調。これに対し環境活動家は危険と反論」（三月一五日）と報じたように、国内で議論が分かれる様相を伝える記事も目立った。

いずれの新聞報道において

も、日本の原発事故が各国のエネルギー政策に「動揺」をもたらした事実は指摘されよう。三・一一は、利便性を優先するこれまでの暮らしのあり方への省察、また、原発建設を足がかりにさらなる「進歩」を追求するこれからの世界のあり方への再考を、強く促す契機となった。

資料展期間中に、「産油国の生活と経済からみた原油のあれこれ―サウジアラビア・湾岸産油国を中心に―」をテーマに福田安志研究員による講演会を開催した。三〇名を超える受講者との関連な議論の場面からは、このテーマに対する関心の高さがうかがえた。一方で、講演前後に資料展に足を運ぶ受講者は少なかった。人々の知的欲求を満たす術の一つに図書館の文献資料が位置づけられるためには、さらなる努力が求められている。

（こばやし まりえ／アジア経済研究所 図書館）

※アジア研のウェブサイトをイベント・セミナー情報・図書館イベント <http://www.ide.go.jp/Japanese/Event/Library/index.html>）にて本資料展の展示リストを公開中。